

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 3月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	3770103079
法人名	株式会社ハッピーライフ愛
事業所名	グループホーム春風荘
所在地	香川県高松市円座町1300-2 (電話)087-815-7200

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成21年2月9日	評価決定日	平成21年3月2日

【情報提供票より】(21年1月15日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 5月15日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	20人 常勤 14人, 非常勤 6人, 常勤換算 15.8人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋造り 3階建ての2階~3階
------	--------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000~70,000円	その他の経費(月額)	30,000~40,000円	
敷金	有() 円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 150,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	400円	昼食	500円
	夕食	500円	おやつ	0円
	または1日当たり		1,400 円	

(4)利用者の概要(1月15日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	9名	要介護4	4名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.3歳	最低	72歳	最高	94歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	溝口クリニック、香川県済生会病院、高松大塚歯科、山口クリニック
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

入口(玄関)に入ると、外出から帰ってホッと一息、木造の長いすに可愛らしい座布団が置かれ、心くばりが感じられる。安全に気を配り、管理者、職員が利用者の状況把握を的確にする目配りも万全である。理念の「目配り、気配り、心配り、そして共に楽しい介護」が実践に反映している。周辺環境、立地条件も散歩に最適な神社などがあり恵まれている。

食材の一部が春風農園で収穫できるのも大きな特徴である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	事故発生時の報告書作成、計画的職員研修や確実な伝達など、改善課題は努力が重ねられ管理者、職員協議のもとに改善し評価への前向きな姿勢が見られる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	自己評価は職員全体の意見が集約されている、また、共有されている。今回改善項目は、ほとんど指摘がなかったがさらによりよい取り組みを期待したい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	運営推進会議は2か月に1回開催されている。行事報告、意見・情報交換がされ内容は全職員が共有しサービスの向上につなげている。会議の参加者も多様で地域交流源としても役立っている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	月1回手書きの書面で便りをし、日々の様子を知らせ月1回の運営会議は家族、職員、利用者の和を深めている。対面で言いにくいことはアンケート(3か月に1回)を行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	挨拶にはじまり、祭り参加、声のかけあいなど馴染みの関係にある団体、個人のボランティア受け入れにも努力している。利用者が地元の一員となるよう、さらなる努力を期待する。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念「目配り、気配り、心配りそして共に楽しい介護」の他にユニットごとの理念がある。利用者(私の目標)と多くの運営理念に基づく目標を掲げて取り組んでいる。	○	事業所内だけに掲げるのではなく外に向かって理念を理解してもらうことで地域へのアピールができると思われる。理念をわかりやすく大きく掲示することが望まれる。
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	目配りノートを記入したり、日々理念を唱和することで共有し、実践に反映する取り組みに努力している。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域運営推進会議の定着により事業所行事、地域行事に気楽に参加し事業所は地域の一員として地元の交流を意識的に深めている。さらに自然交流へ発展していく努力をされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価について月1回の社内研修に取り入れ、他の事業所の情報も取り入れ、学ぶ機会を持ち全員で検討し改善に努めている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の運営推進会議は参加者も多く和やかに行われ、ホームへの理解も深まっている。サービスの現況、行事予定、介護保険についてなど様々な話し合いを行いサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>ホームページを開設し、市町とはサービス運営上の相談、介護保険のわからない点を教えてもらったり、連携は十分とれている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回担当者により手書きの手紙で、日々の様子、健康面、金銭面などについて、定期的に個々にあった報告をしている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会(年2回)、運営推進会議、アンケート(70%回収)などで意見が出やすい環境を整え、率直な意見を把握し職員全員がサービスに反映できるよう努めている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営者は、小さい子供を持つ職員の子育て支援を考え職員の定着に努力している。職員の離職については、防ぎきれない部分もあるが、利用者のダメージを最小限にできるよう介護計画や記録の充実に努めている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外・内部の研修も計画的に出席できるよう取り組んでいる。内部研修でロールプレイング(役割演技法)を試み研修している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>香川県介護サービス事業者協会(40の民間事業者が参加)と交流をもち研修を行い、情報交換、意見交換をしサービスの質の向上を目指している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に事業所見学、家族からの情報収集を十分行い、安心してサービス開始ができるように準備、対応している。入所後は、家族とも話し合いながら馴染みの関係をつくる努力をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で本人でできることは自分で、という自立支援を第一に考え、得意なことは教えてもらうなど互いに支え合う関係づくりを築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	趣味、経験など家族・本人からの情報収集により、希望、意向を把握しカンファレンスにより検討し、改善・実行している。回想法などにより希望・意向を引き出すなど工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個性のある介護計画を担当者を中心に関係者全員で作成している。利用者が「私の目標」を敬老の日に作成し、目標達成に向け支援している。意見、アイデアはケアに反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3か月に1回見直している。利用者の状態変化に応じて見直し、対応を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診、入退院の連絡調整、情報収集の他要望に応じ外出、外食、散歩、買い物など勤務調整をしながら、柔軟に支援、対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	診察の必要性を家族、本人に聞き可能な限り希望に沿うよう努力している。看護婦、職員の同行やホーム送迎など主治医と連携をとりながら状況に合った支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化対応に伴い、2008年7月より重度化対応指針を医療関係者、家族、本人、職員が共有し取り組んでいる。「看取りの援助」の研修会に職員は積極的に参加している。死について家族、本人と話し合いもしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄介助の際、職員は利用者の誇りを傷つけないよう心がけている。言葉がけも丁寧でプライバシーの配慮は十分である。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理・美容、服装にも気づかひが見られ、その時に合った利用者のペースを大切に希望にそった支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のリクエストメニューの取り入れ、食器の模様も見た目に美しく料理を引き立たせ、食欲も増し食事が楽しくなるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	寒い日、入浴剤が使用されるなど希望にそった支援をしている。健康状況のバイタルサインを確認し、タイミングよく入浴支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	健康状態に合わせ花の水やり、調理手伝い、ゴミ捨て、洗濯たたみと役割分担をし、楽しみながら気晴らしにつながる支援をしている。洗濯のたたみ方については統一し、利用者の名札と洗濯物が間違わないよう工夫もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、外出(買物、ドライブ、行事参加など)は身体状況に合わせ希望を聞き、支援している。農園の収穫参加は喜ばれている。家族と共に外出することもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の戸が開いた時はベルが鳴るなど安全の気配りをしているが、やむを得ず施錠する場合、家族の同意を得ている。施錠時、開錠時を明らかにする札がかけられるなど配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練の実施、マニュアル、連絡網も徹底している。避難方法(不自由な利用者)を図解し目立つところに貼るなど工夫されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるカロリー計算は約1日1500カロリー、水分(約700ml～1000ml)を摂取できるようバランスのよい献立が工夫され、一人ひとりに合わせた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール中心に共用空間があり、和室も設けられ、全員が離床し集まっている。採光もよく快適な空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は明るく清潔で家具も持ち込み自由でクローゼット、ソファ、ベッドは各自の好みに工夫し使用している。		